

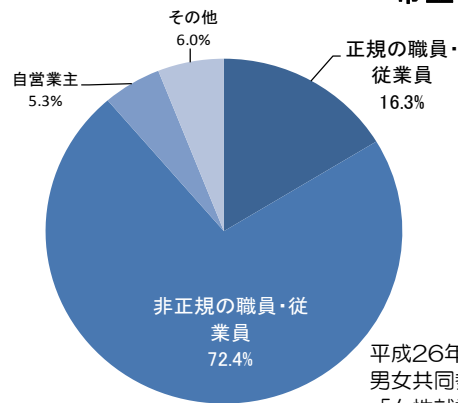
むさしのヒューマン・ ネットワークセンターだより



Vol.48

2014年7月25日

希望する就業形態



平成26年度
男女共同参画白書
「女性就業希望者の内訳」より

Contents

- トピックス(女性の就業と103万円の壁、130万円の壁)・・・①
- 男女共同参画フォーラム報告 ……………②～④
- 講座報告 ……………⑤
- 予定講座案内、むさしの男女共同参画市民協議会委員、
センタースタッフ紹介及び各種利用案内……………⑥

トピックス 女性の就業と103万円の壁、130万円の壁

就労を希望する女性は315万人（総務省平成25年労働力調査）いると言われています。

少子化や高齢化社会にあってこれら女性の労働力は「眠れる資源」とか「潜在力」などと言われており、政府は昨年閣議決定した日本再興戦略の「雇用制度改革・人材強化」の中で「女性の活躍推進」を積極的に行っていくことをうたっています。

しかしながら、年齢別に見た女性の労働力率に見る子育て期25歳～44歳までの就業率は、M字カーブといわれるようにまだまだ低い状況です。また、就労を希望する女性の7割以上は柔軟な働き方ができる非正規就業を選択しています（平成26年度男女共同参画白書「女性就業希望者の内訳」より）。まだまだ育児、介護などの多くの部分を女性が担っているだけでなく、現在の税制にも起因する理由も大きいのかもしれません。

妻の年収が103万円以下であるなら夫の税金が一律38万円軽くなる配偶者控除制度（103万円～141万円までは配偶者特別控除が適用）。103万円を超えると、この控除がなくなるだけではなく所得税も発生します。そして60～80%の企業が支給しているといわれる配偶者手当が支給停止になる場合もあります。

さらに妻の年収が130万円以上の場合は上記に加

え、妻本人の社会保険料（年金と医療保険）の支払いもしなければなりません。

女性の働く意欲をそいでいる制度として見直しに向けて検討されているのが、この通称103万円の壁といわれる配偶者控除の縮小・廃止と130万円の壁といわれる保険料を払う年収基準の引き下げです。

現在、昭和36年に導入された配偶者控除は1400万人が、130万円の壁は960万人が対象となっています。主婦の内助の功への配慮を反映した現税制の変更への対応や働きたくても様々な理由で働けない女性への支援も必要です。

政府は子育て期の女性の就業率を69.3%（2013年）から2020年には73%を目指して様々な取り組みを行っています。

仕事と育児、介護が両立できるような支援サービスの充実や、長時間労働などの見直し、在宅勤務やフレックス、短時間勤務などが利用できる風土の醸成、希望すれば非正規社員から正社員への転換などの柔軟な働き方の導入など働きやすい環境作りが急がれます。一方イクメンやカジメン、イクジイなど男性の育児・介護への積極的な参加や働く女性をとりまく家族や周囲の人たちの理解と協力があってこそ女性だけではなく一人一人が活躍できる男女共同参画社会が実現できるといえます。

男女共同参画フォーラム

～むさしので生きる 自分らしく あなたらしく～

を実施しました

男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間は「男女共同参画週間」となっています。この週間に合わせ、全国各地で様々なイベントが催されます。武蔵野市でも昨年より市民や団体が構成する実行委員会を組織して、今年も「男女共同参画フォーラム」を開催しました。

記念講演会「本当は家にいたい 私の最期の時間」

- ◆日時：6月22日（土）13:30～16:00
- ◆会場：武蔵野公会堂ホール
- ◆講師：上野千鶴子（社会学者）山崎章郎（在宅緩和ケア医、ケアタウン小平クリニック院長）
- ◆コーディネータ：会田恒治（前武蔵野市副市長）

在宅死、在宅ケアのテーマに取り組むお二人の記念講演会は、受付後2週間で定員（350人）に達しました。

上野さんの講演は、上野さんが「在宅ひとり死」というコンセプトに至るまでの道のりを社会制度の変遷やご自分のリサーチ経験から分かりやすく説明。その中で、「在宅ひとり」から「家族介護」を引き算した形を提唱。家族介護という固定的な側面を切り離し、在宅ケアサービスを外付けすることにより、初めて、「在宅死」はそれを望むすべての人のものになるが、現状の介護保険制度にはそんな自由度はない。ではどうすればいいのか。ひとり残される（であろう）私たちは誰が見てくれるの？という上野さんの問いかけには、ジェンダー的視点も含まれています。

続く山崎さんの講演がこの問いの重要なヒントに。医師である山崎さんが構想した「ケアタウン小平」は、一人暮らしの人向け居住施設、介護ステーション、在宅療養支援医療所、ボランティア寮などが寄り合う複合コミュニティ。地域社会と共同の子ども支援サービスや、このケアタウンで亡くなった方の遺族が集うサークルなどが生まれ、ここでは介護と福祉、自立とケアの両立が実現されているのです。「我々は人が亡くなることを医療的な事象ではなく“参加するも

の”ととらえています」という山崎さんの言葉には、死に至るまで「自立」と「関係性」の双方を求める人間の本性にとことん向き合う姿勢が感じられました。上野さんのお話からは、その本性に死ぬまで忠実に、自分が求めるものを求めるべきではないかという示唆をいただきました。

第二部の両氏による対談も圧巻でした。会田前副市長の司会と、伶俐な洞察とユーモアを交えた上野さんのリード、山崎さんの実践データにより核心が絞られます。そこに見えてきたものは、誰でもその気になりさえすれば、制度に頼り切った今よりは豊かな死にができるということ。当日参加された方々の質問への回答も交え、行政の持続力や市民の力の活用まで話は及びました。

上野さん、山崎さんお二人からの共通したメッセージ～当事者として自分の頭で考え、実現することの大切さ～が心に強く残りました。



▲左から会田さん、上野さん、山崎さん。

活かそう！男女共同参画計画

- ◆日時：6月21日（土）14:30-16:00
- ◆会場：武蔵野プレイス スペースC
- ◆パネリスト：野田順子（男女共同参画推進委員会委員）
栗原毅 松井滋樹 二子石薫（同公募市民委員）
大平高司（男女共同参画担当課長）
- ◆コーディネータ：三上かおり（武蔵野市男女共同参画フォーラム実行委員会）



武蔵野市の男女共同参画計画は5年ごとに見直され、今年3月に第3次計画が策定されました。武蔵野市で暮らしていく中で、男女共同参画の視点から漠として感じていた生きにくさや違和感を抱いていた推進委員の方たちが、学びの中で獲得したことや市民の声をもとにして計画は出来上がりました。目標数値を明

記するだけでなく、それを達成するための具体策には今後、市民のより一層の関わりが必要です。新しい計画が策定されたことに満足するのではなく、共に学び考えていくことで、新たに見えてくるものがあります。市民一人一人が暮らしの問題を改善していく力があると気づかされたパネルディスカッションでした。

骨粗しょう症を予防しよう ～骨密度測定～

- ◆日時：6月23日（月）13:30-15:30
- ◆会場：武蔵野プレイス ギャラリー
- ◆骨密度測定と予防に関する保健師アドバイス
- ◆講演：「女性の生涯にわたる健康と牛乳」
阿久澤良造（日本獣医生命科学大学教授）
- ◆協力：健康づくり支援センター 生活クラブ生協



◀骨密度は、このようにして測ります。

会場一杯に市民の方々の参加をいただきました。参加者全員の骨密度測定、保健師さんによる測定結果説明とアドバイス後に、講師の方に「女性の生涯にわたる健康と牛乳」について講義をしていただきました。

骨量は、年齢とともに低下していき、更年期をさかいに急激に落ちていくと言われていています。高齢者の寝たきりの原因として、骨折・転倒が10%を占めています。

閉経による女性ホルモンの減少が、骨密度の低下につながるため骨粗しょう症は女性に多い。18歳前後が最大骨量となりますが、若いうちからカルシウムの蓄積が大事であり、その後も上手なカルシウム摂取と運動により骨粗しょう症を予防しようとお話がありました。

男女共同参画基本条例を考える 条例と私の初めての出会い

- ◆日時：6月26日（木）10:30-12:00
- ◆会場：武蔵野プレイス ギャラリー
- ◆パネリスト：片柳純（まなこサポーター）丸山麻帆（まなこ編集員）
竹内寿恵子（推進委員会公募委員）
- ◆ファシリテータ：向井一江
- ◆企画：条例を考える会



男女共同参画推進に関する条例は私たちの生活に一体どんな変化をもたらすのでしょうか。現代はますます生きにくい世の中になり、女性も男性も様々な問題を抱えています。これら問題の多くの根底には男女共同参画の考え方が関わっているといえます。問題解決に有効な基盤(インフラ)である条例があれば市の施策

に継続性が生まれ、男女共同参画施策が後退することはないでしょう。それを共に考え作っていくプロセスこそ、慣行など社会全体の意識改善につながるはずで、皆でそのプロセスに積極的に関わり、誰もが生きやすい社会を作っていきましょうという熱いメッセージを受け取りました。

多様な性を理解する

- ◆日時：6月26日（木）19:00-21:00
- ◆会場：武蔵野プレイス スペースC
- ◆パネリスト：セクシャルマイノリティ当事者
- ◆企画：共同参画むさしの

レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシャル(B)、トランスジェンダー(T)、Xジェンダー(注1)等セクシャルマイノリティ当事者ひとりひとりが生の声で語り、直面する課題を明らかにして、誰もが暮らしやすい地域と社会のあり方を考えました。遅い時間帯にも関わらず、多くの方々にご参加いただき、性的少数者に対する誤解や偏見を解ききかけとなりました。

(注1) Xジェンダーとは出生時に割り当てられた女性・男性の性別のいずれでもないという性別の立場をとる人々を指します。

◀「武蔵野市には人口の3.5%（約5000人弱）のセクシャルマイノリティがいます。」と説明する共同参画むさしの代表の三上さん。

映画「レオニー」と監督トーク

- ◆日時：6月28日（土）13:00-16:00（1回）
17:00-20:10（2回）
- ◆会場：武蔵野市役所 西棟811会議室
- ◆講演：松井久子（映画監督）

松井久子監督をお迎えし、その魅力的なトークで幕を開けた上映会。雨の中、100名を超える観客で会場は埋まりました。

日米合作の「レオニー」は、米国人女性レオニー・ギルモアの生涯を描いた松井監督渾身の作品。世界的彫刻家イサム・ノグチの母であるこの女性に監督が惚れ込み、6年半の歳月をかけ完成させたという映画の製作裏話は、そのまま、レオニーの強い感性と情熱に満ちた生き方に重なり、「女性はある種“犠牲者”として生きやすいが、レオニーは自分の身に降りかかったことを逆転させてプラスにし、自分らしく生きていく」そこに魅かれ、衝き動かされるようにこの映画を創ったという監督のコメントが印象的でした。



ちょっと聞きたい！

ハッピー子育て&キャリア両立術

- ◆日時：6月29日（日）13:00-15:00
- ◆会場：武蔵野プレイス ギャラリー
- ◆コーディネータ：小倉環（キャリアコンサルタント）
- ◆パネリスト：子育て中のママ・パパ
- ◆企画：日本汎太平洋東南アジア婦人協会

コーディネーターの小倉さんから5人のパパとママに次のような質問が投げられパネルが進行しました。Q1自分とパートナーとの家事・育児の割合は？Q2仕事と子育てを両立する工夫は？（タイムマネジメント、メンタルマネジメントで家事の省力化等）Q3外部とのコミュニケーション気をつけていること。Q4子育てしながら働くことのメリットは？等。

どのパパママもそれぞれの環境の中で相手を思いやり、しっかりと話し合いをしながら子育てをなさっていることがとても印象的でした。

これから出産を控えているご夫婦を交えての話し合いの場もあり、子育てにより夫婦の絆が深まることを実感できたパネルディスカッションとなりました。



▲小倉コーディネーターによる質問風景

パネル展示

- ◆武蔵野プレイス ギャラリー 6月23日(月)～29日(金)
- ◆市役所ロビー 7月1日(火)～4日(金)

男女共同参画の視点でのパネル展示が行われ、武蔵野市内外で活躍する9つの団体にご参加いただきました。カラ=西アフリカ農村自立協力会、むさしのスカーレット、武蔵野ブラショフ市民の会、条例を考える会、無二の会、むさしの男女共同参画市民協議会、

フォーラムを振り返って

第二回目となる今回のフォーラムは、市の男女共同参画計画に照らし合わせた企画となっています。第1回目よりもさらに多彩な企画を実現しようと、積み重ねられた打ち合わせや議論はまさに協働の実践の場といえるものでした。ヒューマンネットワークセンターのスタッフ、市の担当職員、男女共同参画週間事業実行委員のみならず、各企画担当の参加団体に加え、健康づくり支援センター、生活クラブ生協の協力などこれまでにない広がりの中で無事にすべてを終えること

アフリカ女性の今：自立への挑戦

- ◆日時：6月29日（日）15:30-17:30
- ◆会場：武蔵野プレイス スペースC
- ◆トーク：マンスール・ジャーニュ
(株)Ehoesキャスティングディレクター)
村上一枝（NPOカラ代表）
- ◆企画：NPOカラ=西アフリカ農村自立協力会

マンスールさんの母国であるセネガルは昔から多くの部族がお互いを認め合い、融和しながら暮らしてきた国ですが、経済活動等から見ても世界の動きに対応できていないことなどが課題とのお話でした。

村上さんからはマリ共和国の現状を生活の視点からたくさんの写真を通して説明いただきました。女性の自立のためにはまずは水の確保が必要。清潔な水を身近に確保できれば、健康面でも農作物の収穫などの金銭的な余裕もでき、寺小屋も生まれている。そして最終的には教育が大事！とのことでした。女性の自主委員会では、貸付金制度を行い、女性の自立を助けており、すこしずつゆっくと確実にとのことのお話でした。

誰もが知ってるコーラもアフリカ原産、サンバもアフリカに源流をなす踊りとか、アフリカがとても身近になりました。



▲民族衣装姿のマンスールさん



◀パネル展示、プレイスにて

日本パシワ(汎太平洋東南アジア婦人協会)、介護保険むさしの市民の会、まなこOG会。それぞれの団体の活動の様子がパネルに映し出され、観る人に元気を与えてくれる、そんな展示ばかりでした。訪れた市民の方々が熱心に見ていかれました。

ができました。関わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。私自身の気づきとして終末期医療の文化的な意味の変容、多様な性を理解するうえでのカミングアウトとアウトティングの危うさ、またイスラムの女性の学びの困難さとそれを支援する人との出会いなど、挙げればきりが無いほどの宝物を受け取ったフォーラムでした。

武蔵野市男女共同参画フォーラム実行委員長
砂川直美

「子育て主夫に学ぶ家事・育児の極意 男性による男性のための生活力講座」

- ◆日時：2月15日（土）14:00-16:00
- ◆会場：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
- ◆講師：子育て主夫ネットワーク レノンパパ
浅田直亮さん、梶勇基さん、佐久間修一さん、掘込泰三さん

妻の気持ちを
くみ取ることが
大切です。



「レノンパパ」は「近くに同じような男性がいないので、集まって交流しよう」と結成された子育て主夫のネットワークです。従来の固定的な家族像にこだわらず、家族の在り方は様々で良いのではないかと、子育ては未来を作る仕事、誇らしい仕事ではないかと考え活動しています。

最初に自己紹介をかねて、これまでの経緯や思いを講師4人の主夫に語っていただきました。「それほど子供好きではないが仕事では得ることが出来ないハッピーを、子どもの笑顔で感じる」「仕事に疲れ、育児がしたかった。妻は育児に疲れ、仕事をしたかったと利害？が一致し、主夫になりました」「結婚半年から専業主夫です。出産するけど育児はしないという妻との話し合いで主夫になりました」「育児のほとんどを担ってきました。子どもからの愛され度は抜群だと自負しています」4人の飾らないお話しぶりがとても印象的でした。

次に「主夫だからわかるパパの気持ち、ママの気持ち」として 女性の愛情曲線と産後クライシスの問題の解説、またママ友同士、普段の会話を（許可を得て）録音したのも披露されました。「妻の気持ちをくみ取ることが大切だ」と参加者一同認識できました。また、子育てや家事を完ぺきにやらない、手を抜くときははぬくことも必要という意見も出されました。

グループワークでは「地域でのつながりが欲しい、広げたい、情報交換がしたい」「週末しか時間が取れないが、どのように家事をしたらよいか聞きたい」などの課題が出ました。最後には、パパ友グループを作り、連絡を取り合おう！との話も出て今後のネットワークの発展が期待されます。これから武蔵野のレノンパパ達の活躍に注目です。

実際の家事に落とし込める具体的手法について、もっと教えて欲しかったです。

非常に有益で期待以上でした。ありがとうございます。父の役割とどう両立させていくか、真剣に考えてみたいと思います。

<参加者の感想から>

「働くママ&職場復帰を考えるママのための交流会」

- ◆日時：3月1日（土）10:00-12:00
- ◆会場：武蔵野市民会館 2F 講座室
- ◆講師：小倉環さん（キャリアコンサルタント）



1月に実施した復職応援セミナーに続き、働くママのための交流会を実施しました。復職応援セミナーに参加された方の顔ぶれもあり、同窓会のようなほっこりとした空気感の溢れたこの交流会。

講師は復職応援セミナーと同じく、キャリアコンサルタントの小倉さんをお招きしました。今回は、ワークも盛り沢山で、参加者が「自分は一体どうしたいのか」について、改めて考える機会にもなりました。また、今回は2名のゲストの方にも来ていただきました。異なる職種・環境のお2人から、1日のタイムスケジュールをご紹介いただき、どのような工夫をしているかなど、お話しいただきました。「仕事と育児。すぐに良いバランスなんて見つからない。失敗したら、見直せばいい。」という言葉に、参加者の皆さんも少し気持ちが軽くなったようでした。

また、すでに仕事に復帰されている方の参加も多く、活発な情報交換がなされていました。復職を控えた方は、すでに復帰された方の話を聞きながら、

具体的なイメージを描けたようです。交流会終了後も名残惜しそうに、お話しされている様子が印象的でした。また、当日はパパの参加もあって、パパ同士の交流も深まったようです。

定員の倍以上のお申込みがある程、大盛況となったこの交流会。今後もこのような機会が欲しいとの声も寄せられ、地元において働くママ同士の交流の場があることは貴重であると、再確認することができました。

自分だけでは無理でも、仲間がいれば乗り越えられることもあります。この交流会で出会った仲間たちとの関係がこれからも続いていき、参加者の皆さんの生き方の幅を広げる助けになればと願っています。

<参加者の感想から>

みんな現実に直面しながら1つひとつ乗り越えているのだということがわかり、気持ちが楽になりました。

色々な気づきがあって、大変有意義な時間でした。

○10月 幼児をもつお母さん向けの講座 全3回

子育ては楽しいけれど…「このままでいいのかな」と感じることはありませんか。女性学の目線で自分を見つめ直し、これからの自分のプラン設計をしてみませんか。子どもや家族からちょっと離れて、お母さん同士で自分たちのことを考える、そんな時間を楽しんで下さい。

○10月 男性のための生活力アップ講座 家事場のパパチカラ 全2回

今年度の男女共同参画週間のキャッチフレーズは「家事場のパパチカラ」。男性の家事参加意識は向上しつつありますが、意欲はあっても具体的にどのようにしたら良いのか悩んでいる方も多いのでは？そんな男子に贈るパパチカラ養成講座です。

○11月 思春期の子どもを持つ親のための講座

最近、扱いにくくなったわが子。“思春期”だから仕方ないのかしら？心も体も大きく変わる思春期は子どもの自己肯定感も大きく揺らぎます。思春期の体のメカニズムや最近の性教育、友達との関係・コミュニケーションの変化など、この時期、自立へ向かう子どもの親として必要なことを学びます。

センターに新しい本が届きました♪

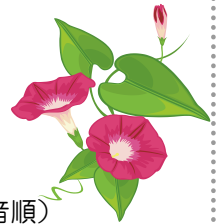
センターでは1600冊の様々なジャンルの本があなたをお待ちしています。図書館にない本、あってもなかなか借りられない本も、ここならあるかもしれません。学生の皆さんは夏休みの自由研究テーマも探してみても？新刊リストはセンターHPをチェック！

「むさしの男女共同参画市民協議会」
平成26年度運営委員決まる！

4月26日(土)10:30から市議会議長、市議会議員他をむかえて行われた総会では、前年度の事業報告や26年度に向け新運営委員の選出がなされ、承認されました。むさしの男女共同参画市民協議会は、引き続き、事業の一部委託を受け、市と共に男女共同参画推進を担っていきます。

平成26年度 運営委員

- 会長 原 利子
副会長 向井 一江 二子石 薫
大島 登志子 大久保 力 木下 章子 桑田 知子 栗原 毅 砂川 直美
高坂 祐里子 竹内 寿恵子 内藤 博子 野崎 斐子 深田 貴美子 三上 かおり (50音順)



～むさしのヒューマン・ネットワークセンター 26年度スタッフ紹介～



この4月より4人のスタッフでセンター業務に励んでいます。市民のみなさまに親しまれる円滑なセンター運営、各種講座を通して、武蔵野市の男女参画推進に寄与できるよう努めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。
石井 由紀・今井 夕香子・金井 真人・小泉 曜子 (50音順)

秘密
厳守

女性の悩みごと相談

-ひとりで悩まずに、まずは相談を-

無料

- 女性総合相談…50分まで面談または電話・予約制
第2木曜日(10:00～、11:00～)
第4火曜日(13:00～、14:00～、15:00～)
- ★場所・問い合わせ
市民活動推進課市民相談係(市役所西棟7階)
☎60-1829 ☎60-1921(予約専用)
- 母子(ひとり親)・女性相談
月～金曜日(9:00～17:00 祝日・年末年始を除く)
- ★場所・問い合わせ
子ども家庭支援センター ☎60-1850

● センター利用案内 ●

開館時間：月～土曜日 9:30～17:00
休館日：日曜日・祝日、年末年始
会議室利用時間：
《午前》10:00～13:00 《午後》13:30～16:30
※予約制(2か月前より可) / 利用料無料

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター
武蔵野市境 2-10-27 武蔵境市政センター2階
電話/FAX : 0422-37-3410
E-mail : mhnc@tokyo.email.ne.jp
ホームページアドレス <http://www.mhnc.jp/>
見やすくなりましたので是非ご覧ください！

ご存知ですか。『まなこ』

武蔵野市の男女共同参画の冊子です。No91が8月末に発行されます。今回のテーマは「母との関係を見つめなおす」。当センターはじめ市役所、市政センター、図書館、コミセン、駅等市内の約450か所に置かれますので是非手に取ってご覧ください。